

■ナンバリングコード			
FHS-AAX0401			
■科目名			
教職概論			
■英語名			
Study for a Teaching Training			
■開講学科		■コース	
法文学部共通		学部共通	
■授業科目区分	■授業形態	■単位数	■開講期
教職科目	講義	2単位	2～4年
■担当教員		■連絡先 (TEL)	■連絡先 (MAIL)
川野 恭司		099-282-1909	kawakyo@po4.synapse.ne.jp
■共同担当教員		■前後期	
		後期	
■授業概要			
教職の意義と学校教育の現状、直面する課題について多角的に考察する。具体的には、授業計画に述べるような各テーマについて、教師の題提起を基にグループおよび全体で意見を交流しつつ認識を深める。 第1時間目に班を編成し、ほぼ毎時間、グループ活動・プレゼンテーション・討論などをおりこんだアクティブラーニングを展開する。			
■学修目標			
教職の意義、教員の役割・職務内容等を学ぶことを通して教職の基本的なありようと自己の教員としての資質についての洞察を得る。 具体的には、教職の現場が直面する様々な問題にどう対処するか、討論を通して多角的に迫りながら原則的な視点を獲得する。 子どものしあわせ、子どもの人権から問題をとらえることができるようになる。			
■授業計画			
※本授業は、毎回対面命式で行う予定である。なお、授業形態については、種々の状況により変更となる可能性がある。授業形態を変更する場合は、予めmanabaのコースニュースや授業内において通知する。 基本的には教員の問題提起にもとづき対話・討論を中心に展開する。学生のプレゼンテーションも随時織り込む。 ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～ 第1回 授業の進め方について、思い出の中の教師像 第2回 子どもの体と心、その実態 第3回 閉ざされた体と声を開く～群読と「演技」～ 第4回 学校の再生と特別活動 第5回 学級づくり、個と集団 第6回 「いじめ」に向き合う その実態、定義、構造 第7回 判例に学ぶ「いじめ学習」 1 第8回 判例に学ぶ「いじめ学習」 2 第9回 ハンセン病問題を学ぶ 1 VTR視聴 第10回 ハンセン病問題を学ぶ 2 歴史と現在 第11回 地域・保護者と学校教育 第12回 学力と進路指導 望ましい進路を求めて 第13回 教職員の権利と義務 第14回 学校教育における「授業」の意味を問い直す 第15回 教師の資質について、全体の総括			
■授業外学習 (予習・復習)			
マスコミ等で報道される教育関係の情報は、その都度チェックしておくこと。(最近では「いじめ」「校則」「体罰」など) 予習：全員、各授業の前にレジュメ・資料に目を通しテーマについての探求・考察を進める(2時間)。プレゼンテーション担当者(あるいはグループ)は事前の内容検討(1時間～2時間)。復習：全員毎授業後に授業内容をふり返り、所感レポートを提出する(2時間)。			

■教科書

本授業では特に指定せず、必要に応じて参考書を用いる。

■参考書

文科省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編」（東山書房2018年）、文科省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編」（東京書籍2019）、梅野正信編「教師は何から始めるべきか」（教育史料出版会1998年）

■成績の評価基準

平常点（毎時の授業参加とレポート）を最も重視する＝70%

学期末提出の総括レポート＝30%

■オフィスアワー

講義前後30分、非常勤講師控室にて

■アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

■アクティブ・ラーニング（その他の内容）

群説の構成と実演。ディベート・討論による深化

■アクティブ・ラーニング（授業回数）

ほぼ毎回

■備考（受講要件）

講義にあたっては、問題提起（問いかけ）に対し、積極的に応答し、自ら討論に参加することを重視する（評価する）。このこと自体が、教職にあってはもちろんのことこれからの世の中を生きる上で大切な資質になると考えるゆえ。

■実務経験のある教員による実践的授業

授業担当者（川野）による模擬的授業提起を随時くみこむ。